Tsuchiura Kyodo General Hospital

№1
2016. 1 発行

地域医療連携室報
かけはし

TEL：029-846-3682
FAX：029-846-3683

<新病院>

土浦協同病院新病院がめざす地域医療連携

病院長　家坂　義人

土浦協同病院は1970年に310床の規模で土浦市真鍋町に設立され、微力ながら地域医療に邁進して参りました。今日に至る45年間、地域住民の方々のご支持、地域の診療所・病院の先生・職員の方々のご支持・ご助言・ご協力、ならびに、行政および諸機関の多大のご支援のもとに、地域における最大の基幹病院として、今日に至ることができました。翌3月開院の800床の新病院では、地域を支える皆様とともに更なる地域医療向上への貢献を目指して、日々、診療に従事したいと考えております。

新病院においては、39床の集中治療室、MRI／CT／AGを装備するハイブリッド手術室2室を含む18室の手術室、8室のカテーテル・インターベンション治療室、9室の内視鏡室を備え、常時、対応できる高次救命救急・高度先進院医療を提供する地域基幹病院として、地域の先生方との連携の下に、地域医療に今まで以上に大いなる貢献をして参りたいと考えております。大型のヘリポートを設置し広域の災害医療への対応も視野にいれた高度救急・高度先進医療のみならず、地域の先生方の患者さんにおいて準救急的診療サポートが必要な場合にも、しっかり、対応させていただきます。新病院では総合周産期医療・予防医療・リハビリテーション・緩和医療なども、上質な環境下に、患者さんに優しい、質の高い医療提供を目指したいと考えております。

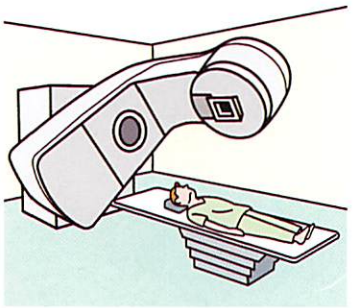
地域のすべての先生方、医療に従事するスタッフの皆様と、顔と顔の見えるフレンドリーな双方向の関係をベースに、患者さんにとっても医療に従事する皆様にとっても、より良い医療環境・医療システムの構築に、密なコミュニケーションをとりながら、一歩一歩、前進して参りましょう。

地域医療連携室紹介

地域医療連携室　大図

地域医療連携室は現在　酒井副院長を室長に迎え新病院に向けより良い連携が図れるようう努力しております。

◎連携室業務　といたしまして



1、　紹介患者のご予約

2、　放射線検査等の受入れ

3、　紹介患者に関するお問い合わせ

4、　逆紹介患者のご依頼

などを行っております。ご予約等では希望日にお入れすることが困難な場合があり先生方には大変ご迷惑をおかけ致しております。新病院では、担当職員も増え的確に迅速に業務が遂行出来るようにしていきます。また、紹介のお返事もシステム的にチェックが出来るようになり迅速に御返書が可能となっております。

5、　メンバーの紹介

室長　酒井

事務　大図　関口　奥村

新病院にむけて増員予定です。

新病院では、受付けとなりに患者サポートセンターを配し、様々な相談に答えられるよう準備致します。新病院に向け折に触れ文書を発行いたしますので、どうぞお気軽に地域医療連携室をご利用下さいませ。

診療科紹介

整形外科領域における地域連携

副院長兼整形外科部長　河内　敏行

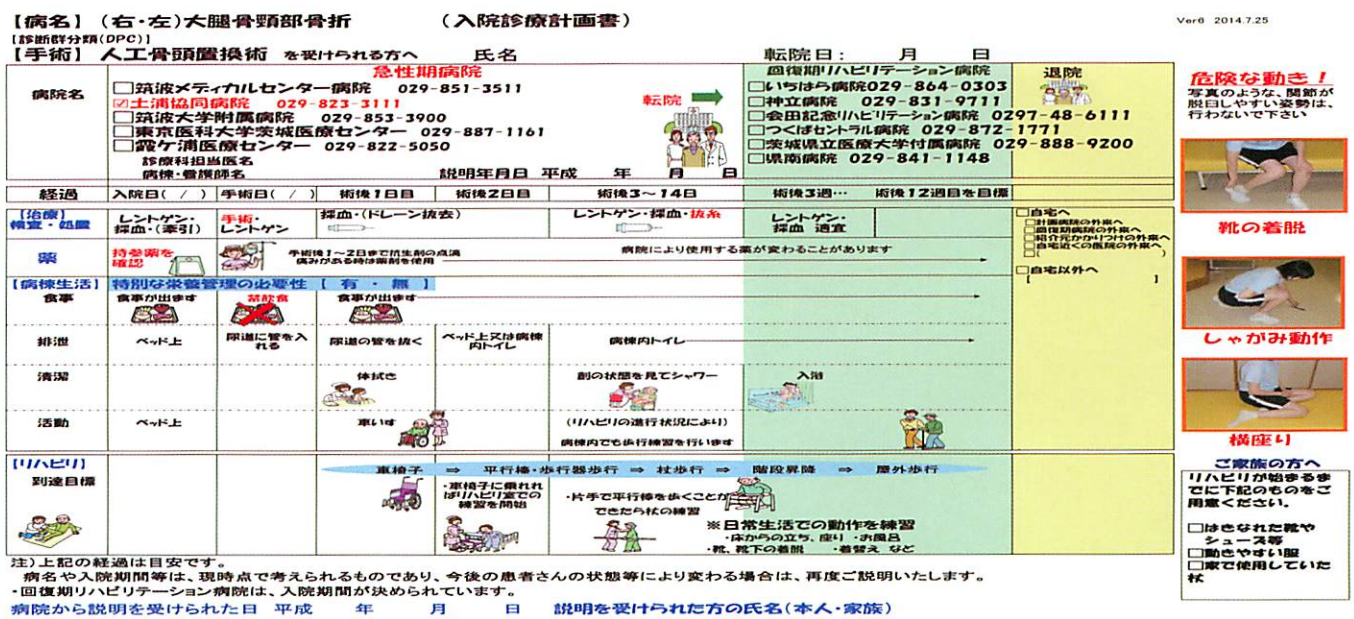
未曾有の超高齢社会を迎えた現在、高齢者医療の対策が急務です。大腿骨近位部骨折は、骨粗鬆症を基盤に些細な転倒等で発生し、手術が必要です。昨年度当院整形外科1,400件超の手術のうち200件余が大腿骨近位部骨折で年々増加しています。しかし手術のみでは次の骨折の予防はできず、転倒予防のリハビリや、原因となる骨粗鬆症の治療が必要です。
手術数は増加の一途で、全てのリハビリや骨粗鬆症治療を当院のみで完結するのは、物理的に不可能で，医療の分業が必要です。急性期(手術)～回復期(リハビリ)～維持期(投薬)まで切れ目なく、質の高い医療を継続・提供することがもとめられます。

土浦・つくば圏域では、2007年に急性期（当院、筑波メディカルセンター病院）と回復期（神立病院、いちはら病院）の4病院で、大腿骨近位部骨折地域医療連携パス合同会議が発足、以後拡大し、現在では、急性期5病院、回復期6病院の計11病院が参加しています。年に3回、総数100名を超す多職種スタッフ（医師、看護師、リハビリ、薬剤師、ソーシャルワーカー、事務）が参加する会議や講演会が開催され，「顔の見える連携」が実践されるようになりました。

更に、急性期(手術)～回復期(リハビリ)にとどまらず、急性期～回復期～維持期(投薬)の連携も構築するため、2013年に土浦近隣の診療所と、「土浦地区骨折予防連携協議会」を発足いたしました。この会では、骨折の原因となる骨粗鬆症の治療継続を目的とし、当院の患者さまの多い土浦市・石岡市・稲敷市・かすみがうら市・行方市・美浦村・阿見町・小美玉市の34の整形外科で協議を行い、質の高い治療の分担・継続を目指しています。

骨粗鬆症は、メタボのように検査値で表されるものではなく、症状も骨折するまではっきりしないため、治療をやめてしまう患者さんが多いのが実情です。しかし、次の骨折を予防するためには治療の継続が必要で、骨粗鬆薬継続の確認ができるように「フォローアップカード」の運用が始まっております。

今後も患者さまの安心・安全な医療の提供に向け、地域の医療機関との連携を促進していきたいと思いますので、地域の皆様のご指導よろしくお願いいたします。



連携医通信

地域連携について

新治診療所　院長　杉浦　敏昭

最近大病院指向・専門医指向の患者が増え、軽症でも大病院へ向かう傾向がある。その一方で、専門医は自分の専門のところしか見てくれないなどの不満の声もよく耳にする。そのニーズに答えるためには開業医と病院との連携が必要である。地域医療連携とは厚生労働省が推奨する事業で、一つの病院がすべての医療機能を提供するのではなく、それぞれの医療機関の持っている特有の機能を十分発揮し、紹介や逆紹介、医療機器の共同利用などその役割を分担していこうというものである。手のかかる専門分野の疾患は病院で、その他の軽症の疾患は開業医でみていくというスタイルを理想とするものである。

われわれ開業医に必要なことは、専門医受診が必要な患者はいち早く信頼のおける専門医に紹介すること、その後のフォローや逆紹介していただくためのしっかりとした知識を習得することである。土浦・つくば地区は講演会や研究会など頻繁に開催されており、その気になればいろいろな知識を身に着ける環境は整っている。土浦協同病院は信頼できるドクターが多く存在し安心して紹介でき、また一部では連携の会や研究会など開催していただいており大変お世話になっている。今までも多くの患者をやり取りさせていただいており、非常に患者様の満足度は高い。今後も連携を深め、更に患者様に満足していただける医療を提供したいと切に願っている。

＜新治診療所＞